



11. 結婚難と結婚力  
 —わが国における実証分析：1950～1980年—……………安蔵 伸治（南カリフォルニア大学）
12. 昭和55年における離婚の地域別動向に関する統計的分析……………高木 尚文（帝京大学）  
 山本 道子（人口問題研究所）
13. コールの結婚モデル拡張の試み……………小島 宏（人口問題研究所）  
 阿藤 誠（ ” ” ）  
 伊藤 達也（ ” ” ）  
 大谷 憲司（ ” ” ）
- 追悼講演
- 故曾田長宗名誉会員を悼む……………丸山 博（元大阪大学）  
 故寺尾琢磨名誉会員を悼む……………安川 正彬（慶応義塾大学）  
 故南亮三郎名誉会員を悼む……………黒田 俊夫（日本大学）
- 共通論題A「人口学における生命表の利用」報告 <組織者> 江崎 廣次（福岡大学）  
 <座長> 小林 和正（日本大学）  
 兜 真徳（長崎大学）
- A-1. 人口モデルにおける生命表の利用……………伊藤 達也（人口問題研究所）  
 <討論> 山本 文夫（中村学園大学）
- A-2. 医学分野における生命表の応用  
 —Segmented Cohort 分析による主要死因の動向—……………重松 峻夫（福岡大学）  
 南條 善治（福島県立医科大学）  
 久永 富士朗（福岡大学）  
 <討論> 鈴木 継美（東京大学）
- A-3. 生命表理論……………菱沼 従尹（寿命学研究会）  
 <討論> 飯淵 康雄（琉球大学）
- 自由論題報告
14. 府県間移動パターンからみた国内人口移動の推移……………渡辺真知子（国際開発センター）  
 15. 人口の逆転現象とその地域的特性……………宮崎禮次郎（秋田大学）  
 16. 流動的人口予測 —地域人口一斉予測法の改善—……………佐々木 宏（東北開発研究所）  
 佐々木 茂三（岩手県教育センター）
17. 人口統計からみた長崎県……………岡崎 陽一（人口問題研究所）
- 第2日（5月18日）
- 共通論題B「出生力の決定要因」報告 <組織者> 河野 稠果（人口問題研究所）  
 <座長> 濱 英彦（成城大学）  
 兼清 弘之（亜細亜大学）
- B-1. 社会的立場……………阿藤 誠（人口問題研究所）  
 <討論> 高橋 真一（神戸大学）
- B-2. 経済学的立場……………小川 直宏（日本大学）  
 <討論> 大淵 寛（中央大学）
- B-3. 人類生態学的立場（移住と出生力—ボリビアの日本人農業移住者における出生力—）……………柏崎 浩（東京大学）  
 <討論> 小島 宏（人口問題研究所）
- 自由論題報告
18. 労働市場参入・退出フローの決定因……………今井 英彦（中央大学）  
 19. アフリカの飢餓人口—その形成要因の分析—……………畑井 義隆（明治学院大学）  
 20. 人口変動の日中比較論……………黒田 俊夫（日本大学）  
 21. マルサス「人口論」（初版）成立過程の人間論的考察……………赤澤 昭三（東北学院大学）  
 22. 人口政策について……………伊部 英男（日本社会事業大学）  
 23. 人口政策（論）における「目的」について……………加藤 寿延（亜細亜大学）

○会長講演

人口学とその周辺……………小林 和正(日 本 大 学)

○シンポジウム「中国の人口」

<座 長> 村松 稔(国立公衆衛生院)  
河邊 宏(人口問題研究所)

1. 中国の人口動向……………島村 史郎(野村総合研究所)

<討 論> 早瀬 保子(アジア経済研究所)

2. 中国の人口政策……………若林 敬子(人口問題研究所)

<討 論> 石 南国(城西大学)

3. 食糧・農業問題と人口について……………唯是 康彦(千葉大学)

<討 論> 加藤 寿延(亜細亜大学)

なお、次年度の第38回大会は駒沢大学(東京)において開催される予定である。

(山口喜一記)

### 国際人口学会 ( I U S S P ) 1985年総会

国際人口学会 (International Union for the Scientific Study of Population, *President* : Mercedes B. Concepcion) の1985年総会 (1985 General Conference) が、1985年6月5日 (水) から12日 (水) までの間、イタリアのフィレンツェ (フローレンス) で開催された。

今回はちょうど20回めの総会に当たり、全世界から1,000名に近い多くの人口研究者が集り、盛大に行われた模様である。日本からも本研究所の河野稠果 (人口政策部長)、阿藤誠 (人口資質部長)、廣嶋清志 (人口政策部推計科長) の3技官を始め合計10名 (国連人口部からの井上俊一、堀内四郎両氏を含む) が参加された。

総会は、初日 (5日) のOpening Plenary Session における William Brass (U. K.), Nathan Keyfitz (U. S. A. ) および Louis Henry (France) の "Demographers' views into the 21st Century" によって幕を開け、Scientific programme は、28 Formal Sessions, 14 Informal Sessions および 4 Side Meetings に分けられ、それぞれ研究報告と活発な討論が行われ、最終日 (12日) のClosing Plenary Session における Giovanni Spadolini (Italy) および Carmen Miro (Panama) それぞれの "Tribute to Giorgio Mortara, Scholars and politicians: shared responsibilities on population issues" をもって幕が閉じられた。

本研究所関係者の報告としては、Informal Session I. 5 (Reversals in declining mortality) における河野部長 (高橋重郷研究員との共同研究) の "Mortality trends in Japan: why has the Japanese life expectancy kept on increasing?", および Formal Session F. 13 (Demographic and other factors of the family life cycle) における廣嶋科長の "Family matrix: its theory and application" とがあったが、河野部長はまた、F. 13のChairman を担当した。

なお、次期役員の改選が行われて新会長にはイギリスのW. Brass氏が選出され、また、河野稠果氏が理事に再選された。今回の総会の内容についての詳細は、次号に掲載 (河野稠果稿) されることになっている。

(山口喜一記)

### アジア諸国の全国人口移動調査に関する国際シンポジウム

エスカップは、かねてから関係諸国の全国的な人口移動調査の実施を企画、相互の比較が可能なように、膨大な数の調査項目を含む調査票のサンプル、調査方法や調査結果の集計方法に至るまでのマニュアルを作って、調査の実施を各国に呼びかけてきた。しかし資金不足、調査の困難さなどから、これまで人口移動の全国調査を実施した国は多くなく、また調査が行われても、その詳細な集計とそれにもとづく分析が行われたものはほ